

～在ハンガリー日本大使館～

2009年12月

— Monthly Review —

全19頁

政治・経済月報(11月号)

政治・内政

- 国会では例年より約1ヶ月早く11月末に2010年予算が成立、それに合わせて少数与党社会党は次期首相候補選定を本格化させるなど、来年春の総選挙に向けた動きを見せた。
- ハンガリー北東部に極右政党ヨッピクの集会参加者とロマ人とが衝突、14名が拘束される事態となった。

政治・外交

今月は次期欧州理事会議長やNATO事務総長、欧州議会議長など大物政治家の訪問が相次いだ。ウクライナのハンガリー系少数民族の教育環境悪化については、外務省や首相、国会などが改善を求めて働きかけを行ったが、ウクライナ側からは積極的な反応が得られていない。

経済・社会

- 欧州委員会はハンガリーの2009年、2010年の財政赤字が政府目標より僅かに上回るとの見通しを発表。
- 10月の消費者物価指数(CPI)がアナリストの予測値を下回る4.7%に。
- 第3四半期のGDPは、前年同期比-7.2%で、事前の予測値よりも大きく下落。
- 9月の総賃金は前年同月比0.7%の上昇。
- 中央銀行は、基準金利を50ベース・ポイント引下げて6.5%に。
- 8月～10月の失業率が更に悪化し10.4%となったと発表。
- 第3四半期の投資高は前年同期比-8.9%で、7期連続の下落。

○インフレ率	(y/y)	(2009年10月)	4.7% (食品: 2.8% エネルギー: 5.8%)
		(2008年平均)	6.1% (食品: 10.2% エネルギー: 12.7%)
○賃金上昇率	(y/y)	(2009年9月)	0.7% (民間: 4.3% 公的: -7.4%)
		(2008年平均)	7.5% (民間: 8.4% 公的: 6.2%)
○鉱工業生産	(y/y)	(2009年10月)	-15.0%
		(2008年平均)	1.1%
○失業率(15-74歳)		(2009年8月～ 2009年10月平均)	10.4%
○政策金利		(2009年11月末)	6.5% (11月24日に0.5%の利下げ)
○10年国債利回り			7.37%
○為替相場		(月中平均)	・1ユーロ = 270.98 フォリント
			・1ドル = 181.60 フォリント
			・1フォリント = 0.49 円

《今月のトピックス》

- | |
|--------|
| I. 内 政 |
|--------|

 1. 2010年予算成立をめぐる動き
 2. ヨッビク及びマジャル・ガールダをめぐる動き
 3. 社会党、議員団長を次期首相候補に
 4. ペーチ大学における銃乱射事件

- | |
|---------|
| II. 外 交 |
|---------|

 1. ハンガリー・スロバキア関係の改善
 2. ハンガリー欧州委員候補の発表
 3. バイナイ首相、イタリア及びバチカン訪問
 4. ウクライナのハンガリー系少数民族の教育問題
 5. ショーヨム大統領のスペイン公式訪問
 6. ファン＝ロンパイ首相のハンガリー訪問
 7. ラスムセンNATO事務総長のハンガリー訪問
 8. オルバーン・フィデス党首とプーチン大統領の会談
 9. ブゼク欧州議会議長のハンガリー訪問
 10. 第2回ハンガリー・スロベニア合同閣議の開催

- | |
|----------|
| III. 経 済 |
|----------|

 1. 欧州委、2009、2010年の財政赤字が政府目標を僅かに上回る見込み
 2. オスコー財相、政府の政策は長期的には成長に必要な条件を築く
 3. 中銀、国内金融システムの安定性向上
 4. バイナイ首相、危機の最も危険な時期は終了
 5. 9月の貿易黒字（速報）
 6. GK I 社、貿易黒字と失業率の増加予測
 7. Kopint-Tarki 社、製造セクターの下落がスローダウンすると予測
 8. 10月のインフレ率、予測値を下回る4.7%に緩和
 9. 財務省、財政赤字GDP比の目標値を3.8%に据え置き
 10. アウディハンガリー、バイオエタノールエンジンの組立てを開始
 11. 第3四半期のGDP、予想以上の下落

12. 9月の鉱工業生産、前年同期比15%の下落
13. フィデス、20年後にエネルギー自給達成
14. IMF、2010年予算における財政赤字目標は現実的と言及
15. 財務相、IMFローンの次回引出しを断念
16. 欧州委、95億フォリントの廃棄物処理プロジェクトを承認
17. 9月の総賃金、前年同期比0.7%の上昇
18. OECD、2009年のGDPを-6.9%と予測
19. 従業員削減は減少へ
20. バイナイ首相、ハンガリーに投資している主要9カ国の大使と会談
21. 中銀、基準金利を50bp引き下げ6.5%へ
22. 雇用促進プログラムを民間企業に拡大
23. 8月～10月の失業率は10.4%
24. ハンガリーのGDPは下落し続けている
25. 第3四半期の投資高は前年同期比-8.9%
26. 2010年度予算案可決

IV. その他

- ・ 11月の選挙・支持政党に関する世論調査
- ・ 11月の為替・金利動向
- ・ 主な出来事

I. 内 政

1. **2010年予算成立をめぐる動き** (2-30日)

(1) 2日、社会党議員団は会合を開催し、2010年政府予算案を全面的に支持することで一致した。翌3日に開催された国会本会議では、2010年予算案の大枠が可決され(賛成200、反対156、棄権1)、地方自治体への交付金700億フォリント削減、地域暖房へのVAT税率軽減等が決定された。

(2) 予算成立には、少数与党である社会党に加えて他の野党議員の票も必要となるが、4日、自由民主連盟(SZDSZ)のレトケシュ党首は、同党は2010年予算案に賛成票を投じるべきではないと発言した。他方で同党のコロカ議員団長は、同議員団長はバイナイ首相の危機管理措置を支持しており、SZDSZ議員団は2010年政府予算案に賛成するだろうと発言、党内の意見の不一致が見られた。

(3) 30日、国会本会議にて2010年予算案が採決に付され、賛成201票、反対179票にて採択された。なお、野党フィデス、キリスト教民主人民党(KDNP)、ハンガリー民主フォーラム(MDF)を含む無所属議員の他、社会党議員1名及びSZDSZ議員4名が反対票を投じた。(2010年予算の詳細については15頁参照)。

2. **ヨッビク及びマジダル・ガールダをめぐる動き** (14-22日)

(1) 14日、ハンガリー北東部ボルショド・アバウーイ・ゼンプレーン県シヤヨーバーボニにおいて極右政党ヨッビクが集会を開催、ヨッビクを母体とする自警団で解散命令が出された「マジダル・ガールダ」のメンバーも制服を着用し参加した。これに反発した地元のロマ住民200-300名が集会会場前に集まり、翌15日には、ロマ人が集会参加者に対して攻撃し、1名が負傷、自動車1台が破壊され、14名が拘束される事態となった。同事件を受けて、ヨッビクは「国会内政党は、ハンガリー人住民を守れない程度でしか警察を配置しておらず、警察が問題を解決できないならば、新マジダル・ガールダと協力する必要がある」旨の声明を発表した。

(2) 17日、政府は閣議において、裁判所により解散させられた団体の活動に参加した者及び裁判所により解散させられた団体の制服又は類似の衣服を集会等で着用した者は5万フォリント以下の罰金を科す旨の政令を制定した。同政令に対しては、法律家等から憲法上の表現の自由に対する制限である等の指

摘もなされている。

(3) 22日、ヨッピクは、ホルティ提督のブダペスト入り90周年を記念するパレードをブダペストにて開催、数千人が参加した。パレードには、制服を着用したマジダル・ガールダのメンバーも参加しようとしたが、警察に止められ、14名が拘留された。レンドヴァイ社会党党首は、同パレードを「ネオ・ファシストのパレード」と批判、野党フィデスはこのようなイベントの開催を許容させる社会党政権を批判した。

3. **社会党、議員団長を次期首相候補に** (24日)

24日、社会党役員会は会合を開き、社会党全国選挙委員会に対して、社会党の次期首相候補にメシュテルハージ議員団長を推薦することを全会一致で決定した。28日に開催された社会党全国選挙委員会会合においても、同議員団長を次期首相候補とすることにほぼ全員が合意した。全国選挙委員会では複数候補を推薦することも可能なため、コヴァーチ欧州委員（元外相・元社会党党首）やシリ前国会議長の名も挙げたが、会合ではメシュテルハージ議員団長のみを推薦することで一致した。同議員団長は、12月12日に開催予定の社会党党大会にて正式な次期首相候補に決定される見込み。バイナイ現首相は、4月の就任時より1年間のみという期限付きで首相を引き受けたため、次期総選挙を戦う首相候補の選定が注目されていた。

4. **ペーチ大学における銃乱射事件** (26日)

26日正午頃、ペーチ大学において薬学部の学生（23歳）が銃を乱射する事件が発生し、19歳の学生1名が死亡、学生及び職員等3名が負傷した。銃を乱射した学生は、実験を行う授業の途中に教室から出て行き、戻ってくるなり15発を乱射したという。教室から退出する前に同級生と口論になったとされるが、詳しい動機は明らかになっていない。容疑者の学生は銃撃後近くの病院に逃走したが、自ら警察を呼び、抵抗することなく身柄を拘束された。容疑者は、射撃クラブの会員であり、拳銃所持の許可を得ていたが、一方で精神病を患っており銃器所有許可を得る前にも治療を受けていたことが明らかになっている。

事件発生を受け、バイナイ首相は弔意を表明、ヒッレル教育文化相と共に直ちに現場へ向かったドラシュコヴィチ司法・法執行相は、記者会見において事件がテロ行為ではなく個人的な動機によるものとの見方を示し、場合によって

は銃器所有法の見直しの必要性もあると発言した。

II. 外 交

1. **ハンガリー・スロバキア関係の改善**（3－12日）

(1) 外相会談の実施（3日）

3日、バラージュ外相はライチャーク・スロバキア外相とともに、両国国境のイポイ川に建設予定の橋の定礎式に参加した後、スロバキアのバンスカー・ビストリツァにて外相会談を行った。

両外相は、本年9月に両国首脳が合意した関係改善のための行動計画の実施状況につき意見交換を行い、両国関係は改善に向かっているとの見方で一致した。懸案となっている「スロバキア国語法」に関しては、ライチャーク首相が実施細則作成においてハンガリー側の要求を取り入れるべく努めている旨述べたのに対し、バラージュ外相は、ハンガリー外務省の見解は同法が適用された時点で発表することになると述べた。

(2) 共通歴史教育教材作成（11－12日）

11－12日、ハンガリー北部のバラッシャジャルマト市でハンガリー・スロバキア共通歴史教育教材に関する会議が開催され、両国大使ほか教材作成に携わった歴史家など約200名が参加した。ワイス・スロバキア大使は、(歴史において)両国を結びつける要素にこそ注意を向けるべきとし、来年9月より同教材が配布・利用されることを期待すると述べた。

2. **ハンガリー欧州委員候補の発表**（5、27日）

(1) ハンガリーの次期欧州委員候補者の指名（5日）

5日、バイナイ首相は、次期欧州委員候補者としてアンドルE B R D理事を指名する旨発表した。本決定に関し、社会党及び野党S Z D S Z、M D Fが歓迎する意向を表明したが、レーパーシ・フィデス議員団副団長は、「共産主義者である銀行家の欧州委員への指名はハンガリーの民主化の成果を台無しにする」(注)と批判した。

(2) アンドル候補の雇用・社会保障担当欧州委員への指名（27日）

27日、バローゾ欧州委員長は、アンドル候補が雇用・社会・機会均等担当欧州委員に就任することになる旨発表した。

(注) 同氏は社会党員ではないが、左派社会批評雑誌の編集長を務め、ジュルチャーニ前首相の下で財務顧問を務めた。

3. **バイナイ首相、イタリア及びバチカン訪問** (13 - 16日)

(1) 教皇ベネディクト16世との会談 (13日)

13日、イタリア訪問中のバイナイ首相はバチカンにて教皇ベネディクト16世に謁見した。20分に亘る謁見では、バイナイ首相がハンガリーの経済状況やEU議長国プランなどにつき報告した。教皇ベネディクト16世は、ハンガリーにおけるキリスト教の伝統に触れたほか、世界規模の経済及びモラルの危機への対応の必要性につき述べた。ハンガリー首相の教皇ベネディクト16世謁見は今回が初めて。

(2) ベルルスコーニ首相との会談 (16日)

16日、バイナイ首相は、訪問中のイタリアで開催された国連食糧農業機関首脳会合の際ベルルスコーニ伊首相と会談した。会談後の記者会見で、バイナイ首相は、両国関係は伝統的に良好であり、エネルギーや経済分野での協力につき定めた二国間戦略協力文書が署名間近である旨述べた。

4. **ウクライナのハンガリー系少数民族の教育問題** (13 - 30日)

(1) ウクライナ大使の召致 (13日)

13日、ファッレル外務専門次官は、駐ハンガリー・ウクライナ大使を外務省に召致し、ウクライナ教育省が2010年からハンガリー語の教科書を発注しないと決定したことにつき説明を求めた。

(2) 首相、国会の動き (27 - 30日)

25日、政府報道官は、バイナイ首相がティモシェンコ・ウクライナ首相に対し、ハンガリー系住民への教育に関し深い憂慮の念を表明する書簡を送ったと発表した。同書簡で、バイナイ首相は、今回の教科書問題の発端が2008年の教育に関する政令にあると指摘し、その修正を求めた。

30日には、国会において、ウクライナにおけるハンガリー系少数民族の差別に抗議する政治声明文書が採択された。同声明は、ウクライナのメディアにおける反少数民族的言動は同国内の民族共同体間の調和を脅かしているとして、行政レベルでも少数民族の権利が徐々に縮小されているとして、問題解決へ向け両国が協力するべきと呼びかけている。

5. ショーヨム大統領のスペイン公式訪問 (16 - 19日)

16 - 19日、ショーヨム大統領はスペインを公式訪問し、国王ファン・カルロス1世、ザパテロ首相らと会談した。

国王及び首相との会談では、2010年から議長国を順に務めるスペイン、ベルギー、ハンガリーの議長国プログラムやリスボン条約の適用などにつき意見交換が行われた。ザパテロ首相との会談後に行われた記者会見で、両者は、3国がリスボン条約発効後に最初に議長国を務めることになることを強調し、共通の経済政策と危機回復政策が中心的な課題となると述べた。

6. ファン＝ロンパイ首相のハンガリー訪問 (17日)

17日、ファン＝ロンパイ・ベルギー首相が当地を訪問し、バイナイ首相とEU議長国プログラム等につき協議した。

会談後の記者会見で、バイナイ首相は、連続して議長国を務める3国が協力する体制は、地理的政治的に異なる国々の協力関係を築く上で有益であると述べたうえ、ベルギー、スペイン、ハンガリーの議長国期間には、EU拡大とリスボン条約の効果的適用、環境政策、エネルギー安全保障問題が重点課題となるであろうと述べた。一方、ファン＝ロンパイ首相は、バイナイ首相の経済危機対策を賞賛したほか、次期3議長国がEUに新たな活力を与えるよう望む旨述べた。

7. ラスムセンNATO事務総長のハンガリー訪問 (19日)

19日、ラスムセンNATO事務総長が当地を訪問し、バイナイ首相と会談したほか、国会で開催されたNATO設立60周年記念会議に参加した。なお、同事務総長の滞在予定が短縮されたため、当初予定されていた同事務総長のショーヨム大統領との会談、及びNATOの「軍事医療に関する卓越した研究拠点」の開所式参加は見送られた。

会談後の記者会見において、バイナイ首相は、ハンガリーはNATOの信頼おける良好な加盟国となることを望んでおり、現在策定中のNATO新戦略を支持する意向を持っている旨述べた。一方、ラスムセン事務総長は、ハンガリーが来年度予算においてNATO加盟国に要求されるGDP比2%以上の国防費支出基準を満たす予定であることを高く評価した。

8. **オルバーン・フィデス党首とプーチン大統領の会談** (21日)

21日、オルバーン・フィデス党首はペテルブルクで開催された統一ロシア党の会合に参加し、プーチン露首相と会談した。会談後のインタビューで、オルバーン党首は、プーチン首相には20世紀の係りに逆戻りさせることなく新しい両国関係を築きたいとの意思を伝えた述べた。

9. **ブゼク欧州議会議長のハンガリー訪問** (27日)

26-27日、ブゼク欧州議会議長が当地を訪問し、ショーヨム大統領、バイナイ首相、オルバーン・フィデス党首等と会談した。それぞれの会談では、スロバキア国語法問題が中心に取り上げられ、ショーヨム大統領、バイナイ首相はともに、欧州議会が同問題を取り上げていることを歓迎した。ブゼク議長は、スロバキア政府が同問題を継続的な話し合いを通じて解決するよう試みっていると報告を受けていると述べた。

10. **第2回ハンガリー・スロベニア合同閣議の開催** (27日)

27日、当国ケストヘイ市においてバイナイ首相、パホル首相等が参加して第2回ハンガリー・スロベニア合同閣議が開催された。同閣議では、首脳会談に続いて両国の少数民族代表を交えた会議などが開催され、西バルカン問題やエネルギー、医療問題などに関する協力協定への調印が行われた。

閣議後の記者会見において、パホル首相は、両国間に政治的懸案事項がないことを歓迎したほか、ハンガリーの赤字予算削減を模範的なものと述べ賞賛した。一方、バイナイ首相は、スロベニアが送電網連結プロジェクトを継続し、またガス網連結プロジェクトに参加する意志を持っていると述べたほか、両国首都間の高速道路が連結されたことを歓迎した。

III. 経 済

1. **欧州委、2009、2010年の財政赤字が政府目標を僅かに上回る見込み** (3日)

欧州委員会は、最新の経済予測において、ハンガリーの一般財政赤字が20

09年にはGDPの4.1%、2010年には4.2%となり、ハンガリー政府のターゲットである3.9%と3.8%をそれぞれ僅かながら上回るとの見通しを示した。2009年の財政赤字が政府目標を上回る理由は企業収益の減少、給与税の減少による税収減である。2010年に関しては地方自治体の財政赤字が予想以上に大きいことを挙げている。

2. **オスコー財相、政府の政策は長期的には成長に必要な条件を築く** (3日)

オスコー財相は、現在の政府の危機管理策、緊縮財政政策は、景気回復時において経済成長のために必要な条件を構築することから、長期的にハンガリーのためになると発言した。また、次期政権が緊縮的な経済政策を継続するならば、現在の制限的な危機管理フェーズの後、2011年、2012年には成長率が急上昇すると述べた。政府は2010年には0.9%の経済成長を予想しているが、2011年からは3%以上の成長となると述べた。

3. **中銀、国内金融システムの安定性向上** (4日)

中央銀行(MNB)は、最新の金融システム安定性(Financial Stability)報告書において、ハンガリーの金融システムの安定性は春以降改善し、銀行セクターは新しい経済環境によるチャレンジを受け止めることができる、と述べた。銀行の資本バッファは強化され、同セクターの自己資本比率は11%を超える水準を維持する見通しであるとした。不況により2009年、2010年は不良債権の償却額が増大するものの、2009年の銀行セクターの収益性は予想を上回る見込みである。

4. **バイナイ首相、危機の最も危険な時期は終了** (4日)

バイナイ首相は、CNBCテレビ番組にて、ハンガリーは崖っぷちから引き返し、今回の危機で最も危険な時期から遠ざかりつつあると述べた。しかし、世界危機は失業率が低下し始めるまでは終わらない、それまでには更に半年かかるとコメントした。ハンガリーのGDPの80%は輸出によるため、もし主要市場(ドイツ、フランス、イタリア)が予想以上に早く回復するならば、ハンガリーも予想以上に早く危機から脱することが出来ると述べた。また、2010年の財政赤字目標は3.8%(対GDP)で、ヨーロッパ平均が7.3%であることから、ハンガリーはヨーロッパ諸国の中で最も慎重な財政政策を採

る国のひとつであると強調した。

5. **9月の貿易黒字（速報）**（6日）

中央統計局（KSH）は、速報として9月の貿易黒字が4.86億ユーロとなったと発表した。当該数値はアナリスト予想の3.70億ユーロを上回った。

6. **GKI社、貿易黒字と失業率の増加予測**（9日）

GKI社（政府寄り経済シンクタンク）は、今年は6.5%マイナス成長となった後、2010年は景気停滞するとの見込みを示した。ハンガリー経済は恐らく既に底打ちしており、前四半期と比較すると第4四半期は幾分か成長が見込まれる。2010年後半になってようやく緩やかな成長が期待できる。国内需要が縮小していることから、輸出は今年13.5%減少するが、輸入はそれ以上の20%減少する見込みである。また、失業率は第3四半期に既に2桁の10.3%となり、年末に11%に到達する見込みである。

7. **Kopint-Tarki社、製造セクターの下落がスローダウンすると予測**（9日）

ハンガリーの製造セクターの下落は今後5～6ヵ月の間に大きくスローダウンし、生産は年末から徐々に増加し始める可能性があると、民間シンクタンクKopint-Tarki社は四半期の製造業信頼テストの中で示した。

8. **10月のインフレ率、予測値を下回る4.7%に緩和**（11日）

中央統計局（KSH）によると、10月における12ヵ月消費者物価指数（CPI）は、9月の4.9%から若干下落して4.7%となり、アナリストによる事前の予測値である5.0%近辺を下回った。7月からのVATの引上げにより需要も落ち込んだため、アナリストの予想よりもCPIが上昇しなかったためとみられる。1月から10月までの消費者物価は前年同期比で4.0%の増加となった。KSHの調査部門のEcostatは、CPIが2010年3月に5.3%に上昇するとの予測を発表している。

9. **財務省、財政赤字GDP比の目標値を3.8%に据え置き**（11日）

財務省は、今年におけるキャッシュフローベースでの一般政府財政赤字の予測を、これまでどおりGDP比3.8%に据え置いた。同省は、3.8%の目標値は、政府関連機関における歳出削減努力により達成できるとしている。

10. **アウディハンガリー、バイオエタノールエンジンの組立てを開始** (12日)

アウディハンガリーは、バイオエタノールを利用するアウディA4及びA4 Avant用2リットルTFSEエンジンの組立てを開始した。同社は、3千万フォリントを費やして、既存の生産ラインをバイオエタノールエンジン用に転用している。

11. **第3四半期のGDP、予想以上の下落** (13日)

今年第3四半期のGDPは、小売業の収縮や農業・サービス業及び建設業における不振が予想以上に深刻であったことから、事前の予測値よりも下落幅が大きくなった。中央統計局(KSH)によると、第3四半期のGDPは前年同期比-7.2%、同年前期比-1.8%。

12. **9月の鉱工業生産、前年同期比15%の下落** (13日)

中央統計局(KSH)の改定値によると、9月の鉱工業生産は昨年同期比-15%(暦調整前・後とも)となり、8月の-19.8%から緩和した。9月の輸出販売及び国内販売は、それぞれ同年前月比で-18.2%及び-14.4%となった。1月から9月までの5人以上を雇用する事業所における従業員1人あたりの鉱工業生産は、前年同期比-10.8%であった。

13. **フィデス、20年後にエネルギー自給達成** (16日)

野党第一党フィデスのオルバーン党首は、政権についた際には国家のエネルギー自給達成に向けたプログラムを作成すると発表。同党首は、エネルギー効率を上げ、再生可能エネルギー開発に取り組み、原子力を活用することで自給率の向上が可能としているが、具体的な施策は示していない。

14. IMF、2010年予算における財政赤字目標は現実的と言及 (16日)

ハンガリーについてレビューを終えたIMF調査団は、2010年における財政赤字をGDP比3.8%に削減する目標について、これを上回るリスクはあるとしつつも、達成可能であるとの判断を示した。同時に、フィデスがGDP比7%となる可能性ありとの見通しを示していることについては容認できないとしている。

15. 財務相、IMFローンの次回引出しを断念 (16日)

オスコー財務相は、IMFからの金融支援の次回引出しは見送る一方、EUからの支援の次回引出し延期のための合意に向けた準備をしていると発表した。ハンガリーはこれまで、昨年秋のIMFやEUなどによるスタンバイ・ローン合計200億ユーロのうち、142億ユーロ超を引き出しており、残る57億ユーロは2010年10月までに引き出すことが可能。

16. 欧州委、95億フォリントの廃棄物処理プロジェクトを承認 (17日)

国家開発局(NFU)は、ジュール市(ハンガリー北西部)周辺地域における廃棄物処理関連投資(総額95億フォリント)について欧州委員会(EC)の承認を得たと発表した。このプロジェクトは、同市周辺住民約26万人のための廃棄物処理システムを構築するもので、EUから65億ユーロの補助金を受けている。

17. 9月の総賃金、前年同期比0.7%の上昇 (17日)

中央統計局(KSH)によると、9月における12ヵ月総賃金は前年比0.7%の上昇となった。純賃金は3.4%の上昇。物価上昇率(4.9%)を加味した同月における実質賃金は前年比4%の下落であった。

18. OECD、2009年のGDPを-6.9%と予測 (19日)

OECDは最新の経済予測において、ハンガリーの2009年、2010年のGDPについて、それぞれ-6.9%(政府予測-6.7%)、-1.0%(政

府予測-0.9%)とした。OECDはまた、2011年には3.1%の成長が見込まれるとしている。

19. **従業員削減は減少へ** (20日)

DGSグローバルリサーチ社が11月に行った調査の結果によると、今後3ヵ月に従業員削減を予定している企業は10%だった。また、ハンガリー社会人教育機関連盟によると、従業員削減数は、ピークだった3月から70%減少した。

20. **バイナイ首相、ハンガリーに投資している主要9カ国の大使と会談** (23日)

バイナイ首相は、ハンガリーに投資を行っている主要9カ国(米国、ベルギー、フランス、オランダ、日本、英国、ドイツ、ノルウェー、スイス)の大使と会談を行った。これは、これら9カ国が18日にハンガリーにおける投資環境に悪影響を与えている国内経済活動における「透明性の欠如」に対し注意を促す文書を合同でハンガリー政府に提出していたことに応じて行われた。文書では、公共事業、放送、交通インフラなどの分野における不透明な対応が外国の投資家を阻んでいるとした。バイナイ首相は、政府が投資家の信頼を回復するためのステップを説明し、最も重要なステップは汚職対策であると話した。

21. **中銀、基準金利を50bp引き下げ6.5%へ** (24日)

中央銀行(MNB)は、市場での期待通り、基準金利を50ベース・ポイント引き下げて6.5%とした。7月からこれまでに計300ベース・ポイントの引下げとなった。中央銀行のシモル総裁は、長期の不況によりインフレ圧力はなくなっており、CPIも中期目標を大きく下回る見込みであると述べた。

22. **雇用促進プログラムを民間企業に拡大** (24日)

ヘルツォーグ社会・労働問題相は、既存の雇用促進プログラムを、来年から民間企業にも導入する意向を明らかにした。就職支援対象者を雇用した企業は、来年1月から賃金補助金を受けられる見込み。現在の同プログラムは、地方自治体が用意した業務に90日以上従事した場合にのみ適用されている。

23. **8月～10月の失業率は10.4%** (26日)

中央統計局 (KSH) は、8月～10月の失業率が、7月～9月の10.3%から更に悪化し、10.4%となったと発表した。これは13年ぶりの高水準である。なお、前年同期の失業率は7.7%だった。

24. **ハンガリーのGDPは下落し続けている** (27日)

中央統計局 (KSH) とその調査部門である Ecostat の最新の概要報告によると、1月から9月までのハンガリーのGDPは、前年同期比-7.2%だった。また、同期間の鉱工業生産と建設業生産はそれぞれ-2.1%、-2.7%、輸出・輸入はそれぞれユーロベースで-23%、-29%となっていた。

25. **第3四半期の投資高は前年同期比-8.9%** (27日)

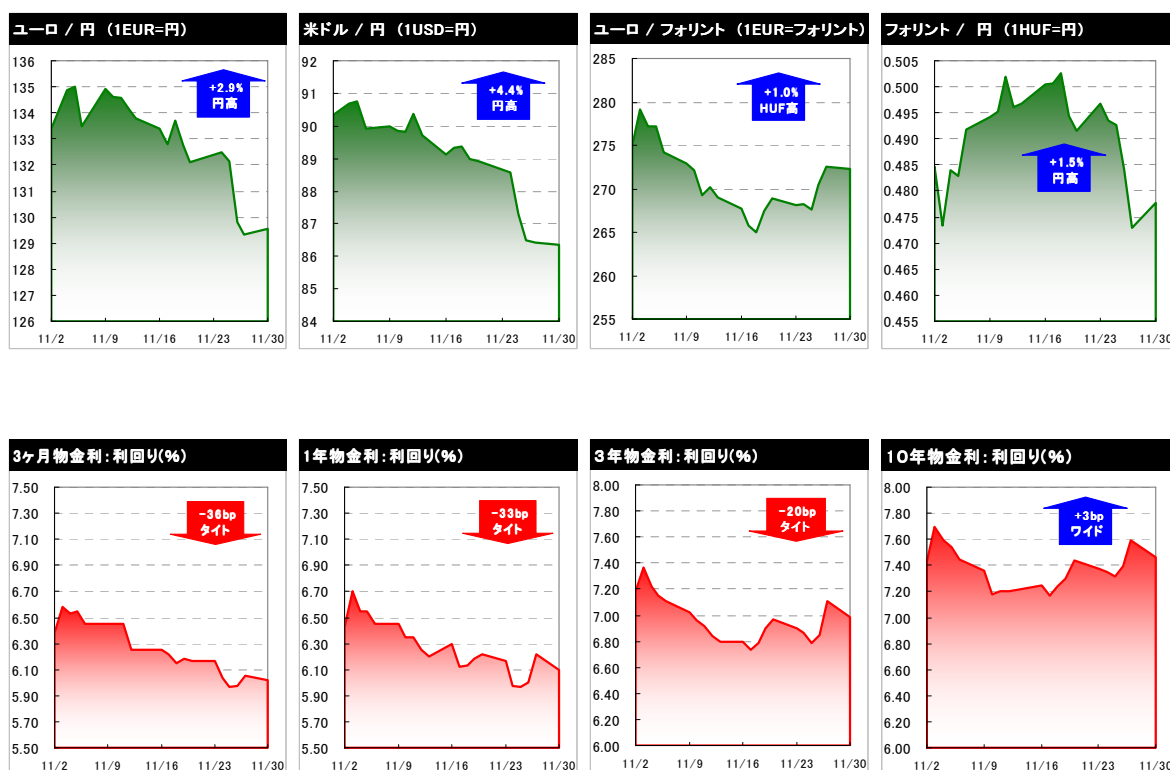
中央統計局 (KSH) によると、第3四半期の投資高は前年同期比-8.9%であり、7期連続の下落となった。第1四半期から第3四半期までについては前年同期比で-7.1%であった。この期間の民間企業の投資は、2008年の水準から約10%落ち込んでいる。

26. **2010年度予算案可決** (30日)

国会は、2010年度予算案を賛成多数で可決した。この予算案は、歳入を12兆6627億フォリント、歳出を13兆5330億フォリントとしており、実質経済成長率を-0.6%、財政赤字のGDP比を3.8%、インフレ率を3.9%として算出されている。今年度予算より大幅に削減されるのは、各省庁予算、ハンガリー国鉄への補助金、地方自治体への分配である。逆に今年度より拡充されるのは治安対策、雇用対策である。

IV. その他

《11月の為替・金利動向》



《11月の選挙・支持政党に関する世論調査》(注)

(1) 支持政党の変遷 (確実に投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党)

	(9月)	(10月)	(11月)
(与党)			
社会党 (MSZP):	23%	17%	19%
(野党)			
フィデスーハンガリー市民連盟 (Fidesz):	60%	65%	64%
自由民主連盟 (SZDSZ):	1%	1%	1%
ハンガリー民主フォーラム (MDF):	2%	2%	2%
キリスト教民主国民党 (KDNP):	0%	0%	1%
(非国会政党)			
政治の新しい形 (LMP) :	2%	1%	1%
ヨッビクーハンガリーのために:	11%	11%	12%
その他政党:	1%	3%	0%

Republic of Hungary

(2) 質問事項：仮に今週日曜日に総選挙があるとすればどの党に投票するか
(質問者全員よりの回答)。

(与党)

社会党 (MSZP) : 12%

(野党)

フィデス－ハンガリー市民連盟 (Fidesz) : 35%

自由民主連盟 (SZDSZ) : 1%

ハンガリー民主フォーラム (MDF) : 1%

キリスト教民主国民党 (KDNP) : 0%

(非国会政党)

政治の新しい形 (LMP) : 1%

ヨッビク－ハンガリーのために : 6%

その他政党 : 1%

わからない、投票しない : 43%

(注) ソンダ・イプソス社調べ (11月2－9日データ収集、サンプル数：18歳以上の市民1500人)。

《2009年11月の出来事》

日	内政	日	外政
---	----	---	----

Republic of Hungary

2	・社会党議員団、政府予算案への合意を表明。	3	・ハンガリー・スロバキア外相会談の実施。
3	・国会にて 2010 年予算の大枠が可決される。	5	・メシッチ・クロアチア大統領、世界科学フォーラム参加のため当地訪問。
4	・レトケシュ S Z D S Z 党首、2010 年政府予算案に S Z D S Z 議員は賛成しないよう主張。	5	・バイナイ首相、欧州委員候補にアンドル E B R D 理事会員を指名。
9	・国会にて新民法典が再可決される。	9	・サルグシャン・アルメニア大統領、当地訪問。ショーヨム大統領と二国間関係などにつき協議。
10	・オルバーン・フィデス党首、テレビインタビューにて政権交代後は大幅減税する旨発言。	9-10	・バイナイ首相、ベルリンの壁崩壊 20 周年式典参加のためドイツ訪問。
14-15	・ヨッビク及び「マジダル・ガールダ」がハンガリー北東部シャヨーバーボニにて集会を開き、ロマ人と衝突。	11-12	・ハンガリー、スロバキア共通歴史教科書の完成を機に学術会議が開催される。
18	・保健省、インフルエンザ「流行している」状態と発表。 ・日・英・米等 9 カ国大使、透明性に関する共同声明を発表。	12-13	・バラージュ外相、ルーマニアで開催された中欧イニシアティヴ (C E I) 首脳・外相会談に参加。
19	・左派の新党「ハンガリーのための自由人」(S Z E M A) 発足。	13-16	・バイナイ首相、イタリア及びバチカン訪問。教皇ベネディクト 16 世、ベルルスコーニ首相と会談。
21	・ショーヨム大統領、クロアチア少数民族のイベントに参加、「全ての少数民族は自治権等を保障されなければならない」旨発言。	13	・ハンガリー外務省、ウクライナにおけるハンガリー系住民向け教科書廃止を受け、ウクライナ大使を召喚。
22	・マジダル・ガールダのメンバー 450 名、ホルティ提督ブダペスト入り記念パレードに参加しようとするも、警察に止められる。	16-17	・バラージュ外相、E U 総務・対外関係理事会出席。
23	・透明性に関する共同声明を発表した 9 カ国大使、バイナイ首相と会談。 ・ショーヨム大統領、憲法裁判所設立 20 周年式典に出席。 ・オルバーン・フィデス党首、来年総選挙で 3 分の 2 の多数の議席獲得は非現実的と発言。	16-19	・ショーヨム大統領、スペイン公式訪問。国王カルロス 1 世と会談。
24	・社会党執行部、メシュテルハージ議員団長を次期首相候補に推薦することを決定。	17	・ファン＝ロンパイ・ベルギー首相、当地訪問。バイナイ首相と E U 議長国協力などにつき協議。
25	・デムスキー・ブダペスト市長、バイナイ首相と B K V 問題につき会談。	18	・米、英、仏、日など 9 カ国の大使館がハンガリーの投資環境改善を求める政府に提出。
26	・ペーチ大学にて銃乱射事件発生、1 名死亡。 ・8-10 月の失業率、10. 4%と発言。	19	・ラスムセン N A T O 事務総長、当地訪問。バイナイ首相、バラージュ外相等と会談したほか、N A T O の「軍事医療の卓越した研究拠点」開設式に参加。
28	・社会党全国評議会、メシュテルハージ議員団長を次期首相候補に推薦。	19	・バイナイ首相、E U 非公式首脳会合出席。
30	・国会にて 2010 年予算が可決される。	21	・メシッチ・クロアチア大統領、クロアチア・デイ参加のため当地を訪問し、ショーヨム大統領と会談。
		21	・オルバーン・フィデス党首、ロシア訪問。プーチン首相と将来の二国間関係につき協議。
		24	・ドゥ・プーチ欧州評議会議長、当地訪問。スロバキア国語法問題につきバイナイ首相と協議。
		26	・ブダペストで V 4 財相会合が開催される。
		27	・ブゼク欧州議会議長、当地訪問。バイナイ首相等とスロバキア国語法問題等につき協議。
		27	・第 2 回ハンガリー・スロベニア合同閣議が当地で開催される。
		27	・国会 4 政党がウクライナのハンガリー系住民の母語での教育保護を訴える声明への支持を表明。
		27	・アンドル欧州委員候補の雇用・社会保障欧州委員就任が発表される。
		28-	・ショーヨム大統領、韓国、日本を歴訪。
		12. 7	

Embassy of Japan in Hungary

1125 Budapest Zalai ut 7. Hungary
TEL :+36-(06)-1-398-3100

E-Mail

政務関係 : political@japanembassy.hu

E-Mail

経済関係 : economic@japanembassy.hu

E-Mail

広報文化関係 : culture@japanembassy.hu

E-Mail

領事関係 : consul@japanembassy.hu